

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

# YWCA 3

MAR. 2011

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【駿河台オフィス】
〒101-0062千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 / FAX 03-3292-6122
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 俣野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp

## 新「防衛計画の大綱」と 民主党政権の 安保・防衛政策の危険性



小沢隆一 (東京慈恵会医科大学教授)

菅内閣は、昨年の12月17日、新しい防衛計画の大綱(以下「大綱」と略)を閣議決定した。民主党政権は、安保・防衛政策をどちらに導こうとしているのか。「大綱」の内容から探ってみよう。

### 1. 「基盤的防衛力構想」の放棄

まず注目すべき点は、1976年の最初の「大綱」以来、1995年・2004年と3つの「大綱」で引き継がれてきた「基盤的防衛力構想」を放棄した点である。この「構想」は、「平成22年版防衛白書」の表現によれば、「わが国に対する軍事的脅威に直接対抗するよりも、自らが力の空白となつてわが国周辺地域の不安定要因とならないよう、独立国としての必要最小限の基盤的防衛力を保有するという考え方」である。この「構想」は、自衛隊の設立以来の一貫した基本理念である「専守防衛」という概念と密接に関わっている。

新「大綱」は、これに代えて、「動的防衛力」という言葉を持ち出し、「各種事態に対し、より実効的な抑止と対処を可能とし、アジア太平洋地域の安全保障環境の一層の安定化とグローバルな安全保障環境の改善のための活動を能動的に行い得る動的なものとしていくことが必要」だとする。あいまいな表現になつてはいるが、その内実を、自衛隊の海外派兵を一層進めようということである。自民政権が、したくでもできなかった「専守防衛」の呪縛からの解放を果たし、海外での武力行使に踏み込もうというものである。また、これは、集団的自衛権の行使に踏み込むことに等しい。民主党政権は、この点でも歴代自民政権の念願をかなえようとしているかのようである。

### 2. 武器輸出三原則の見直し問題

昨年8月に首相の私的諮問機関「新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会」が首相に提出した報告書「新たな時代における日本の安全保障と防衛力の将来構想」(以下「新安保懇談会」と略称)は、日本がめざすべき国の「かたち」として、「受動的な平和国家」から「能動的な『平和創造国家』」に成長することを提唱し、武器輸出三原則を見直して「防衛装備協力」や「防衛援助」を進めることも、「平和創造国家」になるための有効な「手段」だとしていた。なんと「兵器産業の振興が平和創造への道」というのである。もともと、こうした理屈をこねざるを得ないほどに、日本の防衛産業界は深刻な事態に陥っている。最近では、倒産や防衛生産から撤退する企業が増えており、「自衛隊の装備の受注にのみ頼っていたのでは生き残れない」という強い危機意識を持っているのである。

菅政権は、この「見直し」も、新「大綱」に盛り込もうとした。ところが「ねじれ国会」の下での野党工作として社民党の福島瑞穂党首にこの問題を「打診」したところ厳しく反対されたために、新「大綱」には入らなかった。それでも、「国際共同開発・生産に参加することで、装備品の高性能化を実現しつつ、コストの高騰に対応することが先進諸国で主流となつていく」という大きな変化に対応するための方策について検討する」と未練がましい表現になっている。防衛産業界は簡単にはあきらめないだろうから、断絶は禁物である。

### 3. 中国や北朝鮮の動向を口実に

昨年9月に起きた尖閣諸島沖での中国漁船と海上保安庁巡視船との衝突事件をきっかけとする尖閣諸島の領有をめぐる中国と韓国との世論の動き、また、11月23日の北朝鮮による韓国に対する砲撃などによって、新「大綱」の発表直前になって東アジア情勢はにわかには緊迫した。これにより新「大綱」では、自衛隊の「体制整備に当たつての重視事項」に、「島嶼部における対応能力の強化」が盛り込まれた。「国際平和協力活動」の拡大をいま無理に急がなくても、日本周辺地域での自衛隊の任務はたくさんあるとして、自衛隊の人員の大幅縮小を免れる格好の「口実」ができた。結局、新「大綱」では、陸上自衛隊の定員削減は、1000人にとどまり、沖縄県の与那国島に沿岸監視部隊を新設する動きである。

### 4. めざすべきものは何か

「新安保懇談会」や新「大綱」が示すものは、民主党政権の安保・防衛政策が、日米安保を絶対視する対米屈従と軍事生産の拡大に固執する大企業の言いなりという特徴を持っていることであり、この特徴は、自民政権のそれと変わるところはない。それどころか、自民政権の下で生まれ、今日まで受け継がれてきた「基盤的防衛力構想」や「武器輸出三原則」などの見直し、すなわち放棄を、「政権交代」という機会をとらえて果たそうとしているように見え、過去の経緯を「しがらみ」として引きずらざるを得ない自民政権よりも、かえって危険な面があるとも言える。

しかし、国際平和を真に希求するのであれば、軍事同盟からの脱却こそが求められ、国民生活の擁護のためには、米軍への「思いやり予算」を含む軍事費の削減と民生部門予算の増額による経済・財政再建が避けられないはずである。そここそ、安全保障政策の根本的転換の方向性が求められるべきである。東アジアにおける緊張緩和、それに向けて冷静に事態に対処するための国民世論づくりこそ、戦争に対する最大の抑止力であり、そのためには、今こそ憲法9条に基づく積極的な外交こそが日本には求められていることを強調したい。

## あしたへ

荒木紀子

ある新聞に、元旦から「教育・あしたへ」と題したシリーズが掲載された。

記事には、フィリピン・セブ島を拠点にオンライン英会話会社を立ち上げた25歳の女性の取り組みが紹介されていた。英語のできるフィリピン人を雇い、双方のネット回線を使い、日本人に英語を教え、現地の貧しい人たちの仕事を生み出す仕組みだ。学生時代からフィリピンに通い、その人々の声や力を知り、大学院社会起業家養成コースに進み「社会を変えるプロになれ」と励ます講師の下で辿りついた仕事だ。「若者たちは、ちょっとしたきっかけで軽々と国境を超え、人々と繋がってゆく。その背中を押すのが教育である」と結んでいた。

また、記事には、親の貧困・虐待から「生きる力」を失いつつある子どもたちに、その力を養い育む場を提供しているコミュニティサロンも紹介されていた。生活保護世帯の子ども向けサロンでの勉強会に、地域の住民や生活保護で暮らす人たちまでもが指導に加わり、活動が広がっている。「人は支援されるだけでは元気になる。支え合って、繋がることが出発点だ」という記者の言葉が印象的だった。

「女性と子どもの権利を守る」というビジョンの下、YWCAは女性や子どもの権利を守るために、女性や子どもを「あしたへ」と繋げる役割を担っている。ひろしまを巡る旅、日韓ユース・カンファレンス、中高YWCAカンファレンス、世界YWCA総会、また26地域YWCAの女性や子ども向けプログラムは、多様な学びの場であり、人との繋がりを生み出す場でもある。彼女らはさまざまな人と繋がることで、力を得て自信を持ち、世界という視点を意識しながら、可能性を信じて踏み出していく。

「個」が「孤」になりつつある日本で、一人ひとりがかけがえない存在であるというイエス・キリストの教えを基盤に、女性や子どもとともに学びながら繋がりを生み出すことは、YWCAに課せられた役割であると思う。

(日本YWCA運営委員)

3面掲載
加藤YWCA中央委員会のお知らせ
5月21日(土)〜22日(日)
於・国立オリンピック記念青少年総合センター

# 負担軽減「真の」実現を

# 沖縄

大城美代子（沖縄YWCA会長）



辺野古浜にて1月25日午後。平和研修の団体。ピースリボンが巻きついている鉄条網の向こうは基地。近くでは保育園児が砂遊びに興じ、辺野古の子どもたちが、座り込みの象徴的存在のおじいさんを囲んで聞き取り。黄色い袈裟のお坊さんの太鼓の音も響く。きれいな豊かな海を、子どもたちに残したい。この日から、嘉手納では、アラスカの米軍基地からの飛来機を加え、米軍戦闘機同士の模擬空中戦が始まった。夜間の飛行停止さえ米軍に要求できない政府。騒音に墜落の危険、そして戦闘訓練の先には実戦が。

を支持している。それでも抑止力が必要というのなら、普天間基地を本土に引き受ける覚悟で言うべきである。

## 基地がないと沖縄経済は成り立たないというウソ

1972年復帰時は、県財政に占める基地収入は15・6%だったが、現在は5%前後で推移している。内訳は軍用地料・軍雇用者所得・米軍関係の消費支出だが、前者2つは日本政府の予算で賄われている。観光・亜熱帯農業などの収入増もあり基地収入の依存度は下がっているが、沖縄の経済自立を阻んでいるのは、実は日本政府である。沖縄は復帰以来、財政依存型経済が増している。政府はさまざまな振興策で給を配り、基地の固定化を図ってきた。人口が密集している沖縄の中南部にある基地は、もともとは住宅地・農地である。那覇にあった基地は返還後、平和な佇まいの街になり、多くの雇用を生み、若者にとって結婚したら住みたいという憧れの場所になった。「財政依存型経済」とは、国への経済依存度を高め、国民の税金で沖縄に基地を押し付け続けるということであり、政府にノーと言えない沖縄づくりである。

## 新たな基地を押し付ける政府

基地返還にこそ沖縄の未来があるのに、政府は逆行する政策で沖縄を威嚇する。辺野古反対の主張を曲げない名護市に交付予定の16億円を凍結した。基地建設が進んだ分だけ交付するという自民党のやり方を批判した民主党が、同じことを行っている。米軍への思いやり予算をこそ削減すべきである。沖縄では基地容認の大黒柱であった軍用地主・建設業界からも反対の声があがっている。辺野古容認で

## 普天間基地の問題に取り組み思うこと

2010年は、沖縄から米軍基地が全面的に移設されるのではないかと期待に揺れた年でした。私たちは、今年度、待ったなしの沖縄の米軍基地に焦点を当て、平和問題に取り組んできました。まずは普天間基地について書かれたものを読み、同時に今置かれている沖縄の状況をj知るために、昨年10月、沖縄からのメッセンジャーとして舞台「ふくぎの雫」の代表である宜野座映子さんから「沖縄の今の声」のお話を伺いました。沖縄のおじいやおばあ様が大切な土地を守るために、14年間、辺

## 刀ではなく 三線を

野古に基地をつくらせないために座り込んでいくこと、日本政府によるお金のばら撒きで人間関係がずたずたになったにもかかわらず、もうそれではいけないとみんなが寄り添いつつあること等。

基地問題を知るには安保条約は避けては通れないと「今こそ知りたい日米安保」のタイトルのもと安保条約を学び合いました。そして「普天間基地はアメリカが引き取ってください」という資料で、安保条約を知るには朝鮮戦争について学ばなければならないとのことと、やっと

朝鮮戦争の概略を知るところまでたどり着きました。本や資料を読み討議する中で、日清戦争から日露戦争、第一次・二次世界大戦を通して日本の中国への侵略や朝鮮への植民地政策などの実態の把握がまだまだ難しいことに思い至っています。学習半ばですが、物事を包括的に捉えることで自分たちの意見が持てます。そして、それをもとに平和運動に繋がります。

## 今も、沖縄から日本が見える

初めて沖縄に行ったのは、1994年の日本YWCA沖縄旅行であった。伊江島で阿波根昌鴻さんから直に話を聴き、ぬちどう宝平和資料館を見学し、わびあいの里で温かくもてなされていた。

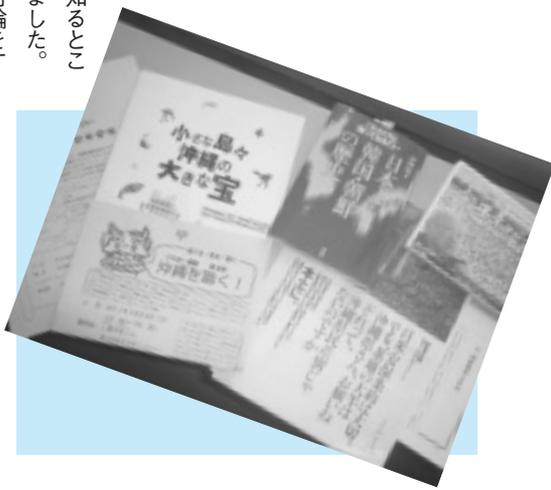
それから二度三度と沖縄に行く度、今も続くその地で起こったことや基地反対に闘ってきた方々と会う度に、「沖縄から日本が見える」という言葉が自分に迫ってくる。すなわち、基地

の重圧を遠い島に押し付けて省みない日本政府と私たち。大阪YWCAに帰ると、何とか皆に現場の空気を伝えたいと、年中行事だったピースフェスで沖縄プロジェクト仕込みの寸劇をしたり紙芝居を作ったりと、いつも非戦非暴力の9条と関連付けて発表し続けてきた。

「名護市にふるさと納税を」という活動が始まった。ご賛同をお願いしたい。  
\*「ふるさと納税」制度を活用して：辺野古基地建設に反対する名護市政を応援しよう！  
については次のサイトを参照ください。  
<http://www.geocities.jp/nobasehenoko/furusato.html>

昨年12月、辺野古に基地移設をと首相が沖縄県知事に会見したが、日本国民の立場に立って先ず米国に向かって話すべきな

次世界大戦で日本兵と米兵に踏みじられ、拳銃の果てに土地を奪われ、ベトナム、イラク、アフガニスタンへの戦争基地として、今なお人々の生活を巻き込んでいく現状を知るにつけ、命がけでうちなう（沖縄）を守ろうとしている人々に寄り添っていきたいと思うのです。刀（日本の武士文化）ではなく三線（沖縄文化）を愛する沖縄の人々とともに。  
名古屋YWCA 宮治陽子



# 第42回全国中高YWCA 顧問総会・研修会報告 ～キリスト教学校における平和教育～



2010年12月26日(日)～28日(火)、「キリスト教学校における平和教育」をテーマに全国中高YWCA顧問総会・研修会が開催され19名の参加がありました。

1日目は横浜YWCAに集合し、横浜共立学園の郡司啓子先生の開会礼拝で始まり、中高YWCA委員会の委員の中から私が「全国カンファレンスに向けて」の発題をし、その後、2グループに分かれての分団で、各地区カンファレンスの状況などを分かち合い、全国カンファレンスを開催することが可能かどうかの討議をしました。

2日目は横浜駅からバスで房総半島の館山に向いました。館山では、まず「かにた婦人の村」を訪れました。「かにた婦人の村」は、婦人保護長期収容施設を自然に囲まれた場所でコロニーの形で作りたいと考えられていた深津文雄牧師が1965年に創設された施設です。施設長の天羽道子さんから「かにた婦人の村」の45年の歴史や現在の様子をお聞きし、食堂でみなさんと共に昼食をいただき、お互いに歌のプレゼント交換をしました。その後、「噫従軍慰安婦碑」・会堂・128高地「戦闘指揮所」壕を見学、説明を聞きました。日本軍「慰安婦」にされた女性で最初に名乗り出たのが「かにた婦人の村」にいた城田すず子さんであったことや、会堂には城田すず子さんをはじめ亡くなられた方の遺骨が納骨されているなどのお話を聞きました。その後、赤山地下壕を見学し、南房総文化財・戦跡保存フォーラムの池田美恵子さんより、館山の戦跡について学びました。また、日本キリスト教団上尾合同教会の秋山徹牧師の「キリスト教学校における平和教育―若者に平和を語り継ぐとは?」と題した講演があり、テゼ共同体の実践から平和について考える時間をもちました。

3日目は、山形学院の三ツ木武仁先生による朝の礼拝に始まり、秋山牧師の「平和の諸相―旧約聖書の平和“シャローム”の概念をめぐる」と題した聖研がありました。

顧問総会では再び、全国カンファレンスを開催するためにはどうしたらよいかとの討議をし、場所のことを考える上でも、次年度の顧問総会を東京YWCA野尻キャンプ場で開催してはどうかという意見でまとまりました。閉会礼拝は2011年度委員長の私が担当し、3日間のプログラムが終わりました。12月末の忙しい中ですが、多くの学びをし、参加された先生方と貴重な時間を共有することができたことを感謝します。



「かにた婦人の村」の食堂で歌のプレゼント

中高YWCA委員会委員・  
プール学院中高YWCA顧問  
松原恵美子

## 種

「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。」  
(ローマの信徒への手紙7章24節)

まもなくキリストの受難を偲ぶレント(受難節)に入ります。この時期、教会でよく聞かれるオルガン曲に「人よ汝の罪の大きいなるを嘆け」という、もの悲しくも美しいJ・S・バッハの曲があります。この曲にバッハは、キリストの受難物語を織り込み、最後の1小節に何ともいえない不協和音と共に美しい旋律を続けて、十字架による死と贖い、感謝を表現しています。

人が長く生きるということは、罪を重ね続けることだ、と思う時があります。人間関係の破れから非難中傷にさらされることも、また自らの内にその深い闇を見ることも度々あります。また現代のさまざまな事象の中に、私たち人類が犯してきた、大きな罪を見ます。「私はなんと惨めな人間なのでしょう」というパウロの呻きは、私たちの呻きそのものです。

人類が、今のように欲望のまま突き進むなら、恐らく「死」は免れ得ないでしょう。今一度、このかけがえない地球が、いったい誰のものなのか、私は何者なのか、どのように変わるべきなのか、立ち止まり、静かに考えてみたいと思います。

寺島順子(日本YWCA運営委員)

## 世界YWCA総会へ 私たちが行ってきます!

前号で、今夏スイスで開催される世界YWCA総会参加者を紹介しましたが、オブザーバー2名の方のメッセージが、原稿をいただいていたにもかかわらず編集ミスで掲載できませんでした。執筆者にお詫びすると共に今月号に掲載いたします。

### 【オブザーバー】

●長尾真知子(東京YWCA会員、30代)

日本YWCAの代表メンバーと力を合わせて世界へ平和を訴えたいと思います。自分にできることは何かを常に考えながら、

お互いの力を最大限生かし取り組みたいと思います。また、世界のYWCAとの交流を通して結びつきを強め、世界平和へ向けてより大きなことを成し遂げる力を育みたいと思います。

●根岸朋子(日本YWCA職員、30代)

担当職員としてオブザーバーで参加します。「ともだち100人できるかな」の歌のように、できるだけ多くの女性たちと知り合い、私たちが他の女性たちのイシューを分かち合う時間を、ステージの合間でも少しでも多く創りだそうと思います。一人ひとりの繋がりは「安全な世界を創りだす」最強な手段だと信じて。

## 2011年度加盟YWCA 中央委員会のお知らせ

のだ。宜野湾市の中央に居座る普天間基地返還の約束を15年も放っておく無神経さはどうだろう!

阿波根昌鴻さんが「米兵も人の子、話せば分かる」と素手で立ち向かい、銃剣とブルドーザーで奪われた農地を黙認耕作地として取り返した勇気と行動力を見習ってほしい。

「いちゃりばちよーでー」

一度行って滞在したら沖縄はもうふる里。地理的に遠くても意識はいつも沖縄と共にある。一人でも多くの方が沖縄の地に立ち、今も憲法9条の精神が届かず安保という軍事同盟に縛られている沖縄の現状に気づいてほしい。そして、平和な楽園になるよう力を合わせていきたい。

大阪YWCA 原 紀子

5月21日(土)～22日(日)、2011年度加盟YWCA中央委員会が開かれます。加盟YWCA中央委員会は、総会での決議事項を実行する責任を担う会であり、この1年間の取り組みを検討し、新たな1年に向けてさらなる対策を協議し決定していく会です。現在運営委員会ではその準備が進められています。できるだけ多くの会員の声が届けられることを願って、主な協議事項をお知らせいたします。

く呼びかけます。「国際」をテーマとしてスタートしたインターシップのインターンによる発表と修了式を行います。そして今年11月に長崎での開催が決まった全国会員集会について、会員が更に互いにエンパワーされるよう、実行委員会で詰めた内容をご紹介します。

YWCAの活性化を目指して、このほかに、財政基盤やファンドレイジングについて考える「広報&ファンドレイジング」

昨年引き続き各セッションは、「YWCAを元気にする」をキーワードに進めます。地域YWCAの協力を得て4期に分けて実施した「適切な運営と説明責任の基準」(SGMA)の結果をいねいに分析し、共通する課題を明確にし、それを乗り越えるための工夫を考え合います。また昨秋完成した「YWCA人材リスト」の活用と2011年度更新版について広

2011年度加盟YWCA中央委員会準備委員長 実生律子



# 「アジアを見つめて 植民地と富山妙子の画家人生」 —日韓併合100年の節目に— 平和を祈って—を開催

東京YWCA



東京YWCAの「Christmas for Peace 2010年」は、韓国併合100年という節目の年であり、富山妙子さんの絵画展（日本YWCA後援）を実施。富山さんは、日本が朝鮮半島を植民地としてきた加害の深さを知り、これらをテーマとした作品を多数制作。戦争責任や性暴力をテーマに89歳の今日もなお、意欲的に制作活動が続いている方です。その作品は、海外では高い評価を得ているにもかかわらず、日本ではその作品や存在があまり知られていません。近代芸術と政治的主張は意識的に切り離され、特に戦争の加害性をテーマにしたものは画壇やマスコミから排除されるという日本独自の暗黙の了解があるからです。「日本は自由だと思っている人は多いけれど、海外から見ればこれほど表現の自由が制限され不自由な国はないと思う。私が、少し自由になったなと感じるのは最近ですよ。だから、私の絵画人生はこれからです。しかも、首都圏で私の作品が展示されるのは初めてです。東京YWCAだからできたことです」。記者会見で、語っていた富山さんの言葉が今までの苦勞の片鱗を伺わせます。

来場延べ約700名。全2週間の絵画展を中心としたさまざまなイベントに参加された来場者からの感想の一部です。「恥ずかしい話ですが、富山さんのことは初めて知りました。あの時代の中からこのような人が生まれたことに人間の希望を見る思いがしました」（60代男性）。「富山さんの絵は実態を描きながら、哀しく圧倒的で迫ってくる。そして、とても美しい。しっかり見なければと思う」（20代女性）。「日本がもたらした真つ暗闇の渦巻く世界がストレートに伝わり、しょげざりでした」（10代女性）。参加者の声に力を得て、東京YWCAでなければできないことに、これからもチャレンジしていきたいと思えます。

東京YWCA 藤谷佐斗子

## 函館YWCA「ぶどうの会」 日本YWCA機関紙を 読みながら

「函館YWCAの小さなグループ「ぶどうの会」は、『讚美歌』を歌いたい、日本YWCA機関紙『YWCA』を読んで語り合い社会問題への意識を高めたい、世界にも目を向けたいという有志によって8年前に生まれました。グループ名は、ヨハネによる福音書15章からとりました。毎月1回、会館の1室で『讚美歌』を歌い、折り、機関紙の「種」に示されている聖書の箇所を読み、メッセージに聴きそれぞれの生活の中の問題などを語り合います。今月の中心テーマも取り上げて語り合っています。楽しいお茶のひとときも

あつて、話題は尽きず時はすぐ終り次回を楽しみに散会します。例会のほかに、これまで持った集会では、「青少年の自立を支える道南の会」代表の藤田俊二さんをお迎えしてお話をお聞きしました。留岡幸助さん創立の遠軽家庭学校の職員として30年間働かれた藤田さんは、教護院や少年院を出てから受け入れ先のない青少年たちのために、自立支援の施設の必要性を訴えられました。「ぶどうの会」では当日の参加者にも募金に協力していただき、小さな力ながら支援がでま

静岡草深教会元牧師の辻哲子さんをお招きしての会では、聖書のお話を聞き、『讚美歌21』から新しい歌を教えていただき皆で歌いました。歓談のひとときはお茶をいただきながら楽しく、心満たされた良い集会だったと皆さんが喜んでくれました。「ぶどうの会」のメンバーは函館YWCAの行事にも積極的に参加しています。これからもキリスト教基盤に立つYWCAの一員として、小さなグループですが大事なことを忘れないうで活動していきたいと願っています。函館YWCA 櫻庭朝子

## 「YWCA人材リスト」を活用して、学んで、楽しんで、仲間を増やしてゆこう!

地域YWCAからさまざまなタレントをお持ちの28名が登録していただき、昨年10月に「YWCA人材リスト」が完成し、各地域YWCAへお配りしました。

登録くださった方たちのテーマを少しご紹介します。女性に関する課題に関しては複数の方が登録していただき、人材が充実し、活用しやすくなっています。子どもを対象にしたものとしては「理科実験工作」や、大人から子ども対象のワークショップ「核のない世界@9条」が登録されています。「小さなYWCAができる大切な仕事」を共に考える」など、小規模YWCA向けのテーマもあります。変わったところでは「市民防災・防災ボランティア」。また「水俣病・胎児性患者の自立支援につながる起業」や「野宿・夜回り一般のこと」など各地域に密着したテーマもあります。さらに、「フルートやオルガン演奏」などの音楽関連や「レクリエーション指導」、「英国紅茶の美味しい入れ方」など多岐にわたったテーマが満載です。

会員自身の学習やレクリエーション、外部向けのプログラム企画に、ぜひこのリストを活用してYWCAの活性化にお役立てください。

最後に活用する際の助成についてお知らせします。「YWCA人材リスト」を活用してプログラムを実施する際、経費の一部を補助するシステムがあります。ぜひこの補助システムも考慮に入れて活用をご検討ください。

地域の人材タレントを共有してお互いの活性化を図りましょう!

地域YWCA支援委員会 荒木紀子

## 次号701号より 機関紙「YWCA」は リニューアルします

私たちの足もとを照らし、時に導き手となることを願って、機関紙「YWCA」の発行は重ねられてきました。ここに700号を届けることができる大きな喜びを感じています。「非核・非暴力による平和」を掲げて活動するYWCAをもっと多くの人に伝えたい、そのために機関紙をより活用できるものに、かねてより検討されてきた機関紙のリニューアル。次号より装いも新たに「YWCA」をお届けします。発行は偶数月、年間6回になります。積極的にご活用ください、またご意見をお寄せくださるよう編集委員一同願っています。

編集委員長 実生律子

「協力ありがとうございました」

- 川端国世 井田すみ 小園井恭仁子
- 加藤栄子 西島 黎 武井多佳子
- 本田恭子 小峯祥子 勝見ふじ子
- 関 宮子 石井寛治 石井摩耶子
- 田中倍子 鈴木伶子 藤井初子
- 本橋育子 浦和YWCA
- 平和教育資金 横山由美子
- 世界YWCA賛助費
- 熊江雅子 江尻美穂子
- 国際協力募金
- 福島YWCA 静岡YWCA
- 浦和YWCA 平塚YWCA
- 浜松YWCA
- ハレスチナYWCA支援募金
- 武井多佳子 静岡YWCA
- 横浜YWCA 浦和YWCA
- 大阪YWCA
- ハイチ大地震被災者支援募金
- 京都YWCA クリスマス集会
- 神戸YWCA
- オリブの木キャンペーン募金
- 田中倍子 小川信夫 和久田信里
- 小林 明 大野綾子
- 東京エクレシア会 大阪市立大宮第2保育所 捜真女学校中学校3年生
- 東京YWCA 聖書を読む会
- 松山YWCA 福島YWCA
- 函館YWCA 大阪YWCA千里委員会 大阪YWCA大宮保育園
- （変革の力基金） 仙台YWCA
- クリスマス献金
- 大野綾子 景山恭子 野田美由紀
- 鈴木みき 松原恵美子 玉川聖学院
- 女子学院宗教部
- とわの森三愛高等学校生徒教職員一同
- 活水中学校・高等学校
- 日本キリスト教団千葉教会
- 日本キリスト教団千葉本町教会
- 日本基督教団松沢教会
- 日本基督教団松沢教会婦人会
- 浦和YWCA 浜松YWCA
- 甲府YWCA
- 事業支援寄付
- 中村紀子 鹿野幸枝 石井摩耶子
- 大川孝子 比企敦子 倉戸ミカ
- NGO日本女性大会参加者有志
- 日韓ユース・カンファレンス実行委員会
- 世界YWCA総会派遣募金
- ワンコインぽんぽん&全国メッセージキャンペーン
- 個人28 中高YWCA1、地域YWCA5。

(2011年1月20日現在)